

### 労働農民黨三團體排斥に就いての聲明書

去る七月二十六、七兩日大阪中央公會に於て開催された、労働農民黨第三次中央委員会は「黨の基礎が確立するまで」評議會、青年同盟、大衆教育同盟の所屬員の入党を拒絶し、水平社無産者同盟に對しては、その態度を保留するといふことを決議した。

抑も、労働農民黨は、昨年第一次労働農民黨が政府の解散により結黨を禁止された後、再度、農工組合を中心とする、無産者無組織運動の努力の結果、去る四月結黨式を擧げるに至つたであつた。而して五月中旬第二次中央委員會に於て、僅一票の差であつたが、入黨者に對する制限は徹底され、こゝに労働農民黨は、名實併ふ全國的統一無産者黨としての發展の可能性を與へられるに至つたのである。

然るに第二次中央委員會の門戸開放の決議は、僅三ヶ月を経過した後に開催された、第三次中央委員會に於て無條件に撤回され、最も嚴格的な無産團體に對し、黨は門を閉鎖した。

而して三團體に對する入黨拒絶は、ひいては、全國に於ける階級の支部、支部聯合會に對する承認の保留となり、ために我階唯一の

全國的大衆的無産者黨は、頭のみを露して存在するといふが如き奇觀を呈するに至つた。

無産階級の要望を無視した斯よふ中央委員會の決議に對する、労働大衆の抗議の運動は、今や全国各地に於ける黨支部、又は支部設立準備會から捲き起されつゝある。

支離階級の離脱と、右翼幹部のあらゆる動向にも拘らず、単一政黨組織のために、幾多の障害、難關を突破することに於て、漸く黨を成立せしめ、ブルジョアの政治的支配に對する闘争を正に開始せんとする時、反動幹部の手に依つて、大衆的無産者黨が、その本來の精神を失ひ得せきになれ、小ブルジョアの議會黨にまで變質されたことに對し、労働大衆が抗議の運動のために奮起したのは當然であつて、吾等も亦、黨中央委員會の決議に對して、反對するものである。

吾等は先づ労働農民黨三回中央委員會に現れた全決定が、無産階級の要望を裏切り、ブルジョアに對する屈従であり、而して三團體排斥が大衆的無産政黨の礎であつて、それは黨をブルジョア黨化する